

令和6年度「県・市町村青少年相談担当職員研修会」

令和6年10月 私学・青少年課

1 趣旨

(1) テーマ 困難な状況にある子ども・若者支援「不登校・ひきこもり状態への支援」
～ 本人にとっての安心・安全な居場所と動き出すきっかけを考える ～

(2) ねらい

近年、不登校の児童生徒が増え続け、令和4年度は小・中学生で4千4百人、高校生も1千人を超えています。中でも中学生は約3千人で10年前の2倍に増えています。そうした状況に対して、学校ではチーム学校、SC・SSWによる支援の他、校内の居場所、教育支援センター、民間のフリースクール・フリースペースなど、様々な形で「学び」や「居場所」の受け皿が広がっています。

一方、不登校・ひきこもり状態が続く我が子に、親御さんの中には相談・支援につながらない不安に孤独・孤立を感じている方が多くいます。ようやくつながった支援先への安心もつかの間、本人が動き出そうとしないことから不安がより深まってしまうこともあります。

他方、本人は家庭や学校の周りの人たちの不安に対してどうしたらいいのか分らない、自分でもどうしたいのか分らないで心を閉ざしてしまう場合もあります。

本研修会では、そうした当事者の不安にどのように対処していったらいいのかを考えるため、県総合教育センターで今年6月から新たに始めた不登校児童生徒のオンライン学び場「つなサポ」の実情報告の後、不登校・ひきこもりの経験・支援者から「不登校・ひきこもりの子どもたち」の本音について語っていただきます。

次に、支援者が当事者にどのように寄り添っているのか、動き始めるきっかけをどのように受け止めているのか、医療現場、伴走支援や居場所づくりに取り組む皆さんから報告していただきます。

そして、登壇した支援者たちが参加者の質問に答えながら、孤立・孤独感を抱えている当事者にどのように向き合っていたらいいのか、相談・支援機関等の社会資源をどのように活用していったらいいのかについて意見交換を行い、皆さんと「不登校・ひきこもり支援」を考えていきます。

2 概要

(1) 日時・会場

令和6年12月19日（木）13：00～16：40（開場 12：30）

群馬県公社総合ビル ホール（前橋市大渡町 1-10-7）

(2) 内容

① 情報提供（15分）

新たな学び場「つなサポ」における支援

群馬県総合教育センター子ども教育相談係 補佐 西田 麻規氏

② 当事者の声（35分）

鼎談「不登校・ひきこもりの子どもたち」の本音

■不登校経験者 豊田和明さん（太田市在住）

埼玉県出身。中学1年の2学期にいじめが原因で不登校になる。仲の良い不登校の友人の母親からのアドバイスもあって一緒に私立通信制高校に進学。高校2年の時に母校の教諭になることを志望して大学に進学、現在、わせがく高校の理科教師として1年生フレックス制を担当している。生徒の様々な悩みを受け止めながら高校生活をサポートしている。

■不登校の子どもの母親 岡部知香さん（太田市在住）

公立高進学が決まっていた息子、コロナ渦で入学式の次の日から休校が続いていた間、心の抛り所を失った様子でゲーム三昧の毎日を送っていた。5月連休明けに学校は再開されたが新しい高校生活に馴染めず休みが続いた。昼夜逆転の生活に親の不安は大きくなっていった。やがて担任の勧めで母親はSCに相談、自分自身の気持ちを切り替えるようになり親子関係にも変化が訪れる。不登校が続き進級が難しくなった頃、担任から私立通信制高校の情報をもらい親子で話し合い転学を決断。その後、息子は無事に卒業して現在は就活中。母は自身の経験を活かして友人が設立したフリースクールあおばで支援員を務めている。

■不登校親の会：Soothing Space 親の会（不登校親の会）

太田フリースクールあおば 代表 関口 真由氏（太田市在住）

大阪で通信制サポート校の設立に参加、カウンセリングスタッフとして勤務、公立中学校の不登校生徒の支援に携わる。この経験を活かして地元に戻ってから市内で「Soothing Space」、「癒しの空間」としてパン工房を開設、「ほっこりとできる空間」という意味合い。その後、不登校で悩む親御さんを支援するために親の会を立ち上げた。現在、公民館を利用してフリースクールを運営しています。

■聞き役：群馬県私立通信高校連絡協議会事務局長（わせがく高等学校教頭）丸山 昌利氏

③ 支援現場からの報告（全体75分 各25分程度）

ア) 医療支援「診察室を訪れる当事者たち」

■みどりクリニック院長 鈴木 基司氏

長年、小児科医・精神科医として不登校児童生徒の診察、医療関係者による「こども発達を考える会」の設立・事務局にも携わっています。県子ども・若者支援協議会では医療分野の構成機関、研修会での助言、支援ガイドの作成にも当初から協力していただいています。

イ) 伴走支援「不登校・ひきこもり状態の子ども・若者の伴走支援に携わって」

■NPO 法人 カウンセリング&コミュニケーションミュ（CCM）代表 山本 泉氏

前橋市教委不登校支援（オープンドアサポーター）、群馬県高校中退者等支援の各事業を受託、子ども・若者の自立支援で伴走支援の成果を上げています。これらの実践を通じた本人への寄り添い支援の必要性、自己肯定感を育むための居場所（リカバリーカレッジ）の有用性について支援現場から報告していただきます。

ウ) 居場所支援「当事者にとっての安心・安全な居場所づくりに携わって」

■NPO 法人 ぐんま若者応援ネット「アリスの広場」 代表 佐藤 真人氏

アリスの広場は、不登校やひきこもりの若者が家から一歩外へ踏み出すことを目的とした、好きな時に訪れて、安心して自由に過ごせる居場所で、佐藤代表自身、中学 1 年から 6 年間、不登校・ひきこもりの経験があります。

2014 年に開設して 10 年余、令和 5 年度から群馬県の「ひきこもり支援のための広域的居場所づくり事業」を受託しています。これらの実践を報告します。

<休憩 15 分程度> 報告者に対する質問メモを受け付ける

④ 意見交換（70 分程度）

テーマ「不登校・ひきこもり状態の当事者に向き合った支援のあり方を考える」

■ コーディネーター：共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授 上原篤彦氏

（臨床発達心理師・公認心理師 共愛学園こども園 教育相談・発達支援アドバイザー）

■ 助言者：みどりクリニック院長 鈴木基司氏

■ 登壇者：岡部知香さん（不登校母親）、関口真由さん（フリースクールあおば）
山本泉さん（CCM）、佐藤真人さん（アリスの広場）

<前半>

・参加者からの質問に応える。コーディネーターが質疑応答の進行を行います。

<後半>

・質疑応答の内容も踏まえながらテーマについて意見交換を行います。

⑤ まとめ 上原コーディネーター（5 分程度）

研修会全体を通しての総括を行います。

（3）定員 200 人（先着順） 12 月 13 日（金）まで受付（定員になりしだい終了）

参加対象：教員、教育関係者、青少年支援担当者、民間支援者、県・市町村職員等

下記のフォームから申込みください

フォームの URL（インターネット）

<https://logoform.jp/form/9cfD/750381>

